



7-0284

0282

故小村侯爵傳記編纂事業ニ關スル
最終報告

(密) 小村侯爵傳記編纂事業ニ關スル

外務省

9.3

(本書參通作成、内一通大臣、一通小村侯爵、一通信夫保藏)
大正十五年十月八日

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

故小村侯爵傳記編纂事業ニ關スル最終報告

第一 拙者大正九年八月時ノ外務省情報部長伊集院男爵ヨリ故小村侯爵ノ傳記編纂ノ依頼ヲ受ケ、乃チ資料ノ蒐集査閲ニ當ルト共ニ、同年十一月二十六日、故人九週年忌ノ日ヲ以テ始メテ筆ヲ執リ、翌々十一年六月一應ノ脱稿ヲ告ゲタリ(之ヲ甲號トス)。然レトモ其ノ中ニハ、今日尙ホ公表ヲ憚ルベシト思ハルル箇所多少アルヲ以テ、同稿ハ秘印ヲ附シテ其ノ儘之ヲ外務省ノ記録ニ收メ、別ニ公刊^刊ニ妨ゲナキモノヲ更ニ編纂スルコトニセリ。
第二 然ルニ公刊^刊ノモノヲ編纂スルニ方リテ先ヅ必要ナルハ、前稿即チ甲號ノ中ノ記載事實ノ相違其ノ他ニ關シ關係諸彦ノ指摘注意

9.3

外務省

7-0284

0283

ヲ仰グニアアルベキヲ認メ、伊集院情報部長ノ認許ノ下ニ鐵筆版ニテ寫本十五部ヲ作り、取敢ヘズ小村現侯爵ノ外ニ内田伯爵、珍田伯爵、伊集院男爵、高平男爵、及ビ落合大使（最近ニハ本多熊太郎氏ヘモ）ニ一部宛テ廻付シ、其ノ査閲斧正ヲ求メ置キタリ。

第三 其ノ間ニアリテ、甲號脱稿後ニ發見シタル事實ノ誤謬ヲ正シ新ニ聞知リタルモノヲ加ヘ、公表ヲ憚ル部分ヲ削リタル公刊ノ分乙號ノ起草ニ着手スルコトトシ、大正十一年七月口語體ニテ稿ヲ起シ、翌十二年二月一應脱稿シタリ。元來乙號ハ、豫メ前述ノ關係方面ニ廻付シ置キタル甲號ノ編者ノ手許ニ返還シ來ルヲ俟チ、加筆訂正ヲ參照ノ上起稿ニ着手スルヲ順序トスベキモノナリシモ其ノ返還ニ接スルノ日ヲ豫想シ能ハザリシヲ以テ、時日節約ノ爲メ直チニ之ニ着手シタルモノトス。隨ツテ乙號ノ一應脱稿後尙ホ事實ノ正誤ヲ要スル箇所少ナカラザルベキヲ慮リ、甲號同様ニ寫本二十部ヲ作り、記載事實ノ訂正、記事及字句ノ取捨等ニ就テ注

外務省

意ヲ求ムル爲メ、其ノ若干ヲ現侯爵ノ指揮ノ下ニ若干方面ニ廻付シ、其ノ査閲ヲ求メ置キタリ。

第四 乙號ノ脱稿ニ次デハ、附録トシテ之ニ添付セシムベキ故人ノ履歷關係事項（系圖、年譜、官歴、葬儀記事、墓誌、吊詞等）、議會其ノ他ニ於ケル演說筆記、及ビ故人關係ノ重要國際約定類ノ編纂ニ着手シ、十二年八月略々終ヘタリ。

第五 右ノ甲乙兩號ノ外、在米河上清氏ノ從事スベキ英文編纂ノ原稿、即チ乙號中ノ記載事項ヲ更ニ取捨シタル丙號ヲ乙號編纂ノ傍ヲ作製シ、十一年十一月全部成レリ。此ノ丙號ハ同年十月九日、同十一月二十六日、及ビ翌十二年一月十八日ノ三回ニ逐次之ヲ回氏ニ送付セリ。

第六 乙號ハ、假ニ之ヲ其ノ儘刊行スルトセハ、附録ト併セテ菊版概算二千頁ヲ超ユル頗ル浩瀚ノモノトナルベク、附録ヲ除クモ概略一千五百頁ニ達スベキヲ以テ、或ハ別ニ通俗的ナル菊版六七百

外務省

7-0284

0284

頁ノ小冊子ヲ刊行スルノ利アルベキカヲ思ヒ、此ノ目的ニテ乙號ヲ取捨シテ大凡其ノ一半以内ノモノタラシムベク十三年三月之ニ着手シ、七月其ノ業ヲ終ヘ、稿本二冊ヲ作り、丁號トシテ其ノ一本ヲ現侯爵ニ提出セリ。語數大約五十萬ト算スベク、略々乙號初稿ノ半分弱ニ當ルベシ。

第七 斯ノ如クニシテ本編纂ノ事業ハ、甲號ハ十一年六月、乙號ハ十二年三月、同號附録ハ同年八月、丙號ハ同年十一月、丁號ハ十三年七月、孰レモ一應脱稿ヲ告ゲタルヲ以テ、餘ハ新ニ聞知セル新事實ヲバ主トシテ乙號ニ追加スルノ外、一面ニハ豫テ關係方面ヘ配布セル甲乙ノ兩號ノ當方ニ返還セラルルヲ俟チ、他面ニハ在米河上氏ヨリノ英文原稿到來アリタル上邦文原稿ト照シテ更ニ双方ノ完壁ヲ計ルベク、月々之ヲ期待シツツ今日ニ及ビタリ。然ルニ配布ノ稿本ハ、爾後直接間接ニ其ノ返還ヲ促ササルニ非サリシモ、今日ニ至ルマデ幾許モ其ノ返還ニ接セザルコト別表第貳號及

外務省

0.8

ビ第三號ニ示スガ如ク、又河上氏ノ英文編纂ニ就テハ十三年七月ヨリ愈々着手スル旨當時同氏ヨリ小村侯爵マデ來信アリタル由聞及ビタルモ、其ノ果シテ豫報ノ如ク着手シタルヤ、將タ其ノ進捗如何ニ就テハ、爾來杳トシテ何等聞ク所ナク、而シテ曩ニ當方ヨリ同氏ニ送付シ置キタル邦文原稿（乙號一部、丙號一部）ノミ本年七月其ノ儘返還ヲ受ケタリ。

第八 本稿ニハ通ジテ字句ノ鍛鍊、假名遣ノ統一、段落ノ整調、標題ノ取捨等ニ於テ尙ホ最終ノ洗練ヲ加フルニ至ラザル部分多々アリ。隨ツテ乙號以下其ノ孰レヲ他日愈々公判セララルル場合ニハ、之ニ先ダチ今一度其ノ全卷ヲ通ジテ編摩推敲ヲ加フルノ要アルハ勿論トス。

第九 本編纂ニ關シ編者ニ親シク示教ヲ賜ハリタル諸彦中ニハ令嗣現侯爵ヲ外ニシ、伊呂波順ニシテ子爵石井菊次郎、故男爵伊集院彦吉、石塚英藏、井上十吉、故石川安次郎、稻田周之助、故子爵

外務省

0.8

7-0284

0285

濱尾新、本多熊太郎、伯爵珍田捨巳、故侯爵大隈重信、大島健一、故男爵岡野敬次郎、落合偉平、故落合謙太郎、尾佐竹猛、子爵金子堅太郎、男爵神尾光臣、故加藤恒忠、故加藤増雄、川上俊彦、吉田要作、男爵立花小一郎、男爵高平小五郎、高田早苗、高山眞平、添田壽一、南部球吾、中山寛六郎、男爵中島久萬吉、鍋島桂次郎、中田敬義、室田義文、男爵上原勇作、内田良平、子爵栗野慎一郎、倉知鐵吉、伯爵山本權兵衛、山本猪平、山口宏澤、安井小太郎、松田茂太郎、榊本卯平、男爵船越光之丞、小村捷治、小村俊一、小村良平、小村俊三郎、小玉吞象、小玉二平、子爵後藤新平、淺田徳則、荒川巳次、佐藤愛磨、故木内重四郎、故男爵目賀田種太郎、宮岡恒次郎、三島甲子郎、志賀重昂、執行弘道、故平井晴二郎、比江島嘉一、故杉浦重剛、鈴木重道、鈴木得一ノ諸氏、外數士アリ。特ニ伊集院男、濱尾子、本多氏、大隈侯、落合氏（謙太郎）、金子子、加藤氏（恒忠）、室田氏、栗野子、山本

外務省

伯、榊本氏、目賀田男、杉浦氏、外飢肥ノ各位ヨリハ甚大ノ垂教アリタリ。
第十 本編纂ニ就テ小村侯爵家ヨリ借覽シタル書籍其ノ他諸種書類竝ニ寫眞目錄ハ別紙第四號及ヒ第五號所載ノ通ナリ。尙ホ本傳中ニ挿入スベキ肖像筆蹟類其ノ他ノ寫眞件名ハ、詳ニ載セテ乙號第一卷ノ卷頭目次ニアリ。

稿本各種現在調

甲 號

騰寫シタル部數

内

十五部

廻付先ヨリ未返還（氏名別紙第二號ノ通） 六部
外務省文書課所藏 一部
残り現在 八部

外務省

乙 號	二十部
丙 號	八部
丁 號	一部
作製シタル部數	一部
但シ一部現在	十部
作製シタル部數	二部
但シ二部共現在	二部
作製シタル部數	二部

乙 號
 内 膳寫シタル部數
 廻付先ヨリ未返還（氏名別紙第三號ノ通）
 外務省文書課所藏
 編纂者手許
 残り現在（關係方面ニ廻附後訂正
 追加シタル所少ナカラズ）
 但シ残り現在中ノ四部ハ丙丁兩號原稿用

丙 號
 作製シタル部數
 但シ一部現在

丁 號
 作製シタル部數
 但シ二部共現在

外 務 省

但シ一部現在	以上甲號乃至丁號ノ外、本傳ニ附録トスベキ故人ノ履歴關係事項（系圖、年譜、官歴等）、公表セル諸意見、故人關係ノ國際約定其ノ他重要公文書等ヲ淨書セルモノ別ニ一通アリ。
第貳號	甲號稿本未返還者氏名
配 付 先	稿本番號
小 村 侯 爵	二號
内 田 伯 爵	三號
高 平 男 爵	四號
珍 田 伯 爵	七號
小 村 侯 爵	九號
本多熊太郎氏	十號
廻付年月日	大正十一年六月十日
摘 要	小村侯爵經由
	十六日
	小村侯爵及ヒ
	埴原大使經由
	小村侯爵經由
	十月七日
	十三年六月一日
	十五年二月廿二日

外 務 省

7-0284

0284

第參號

乙號稿本未返還者氏名

配付先	稿本番號	廻付年月日	摘要
小村侯爵	一號	大正十二年二月十九日	
石井子爵	三號		二十七日
伊集院男爵	二號		二十八日
小村俊三郎氏	五號		三月七日
平山男爵	四號		十六日
小村侯爵	七號		八月二十九日
小村侯爵	九號		十三年二月二十五日
本多熊太郎氏	六號		十五年二月十五日

備考

石井子爵ヨリハ十二年六月二十二日付巴里發編者宛書信中ニ
 『日露講和、日英同盟等外交上肝要ナル部分過般航海中一讀
 致候處別ニ差支ノ點ヲ見出不申云々』トアリ

外務省

第四號

故侯爵傳記編纂資料目錄

- 第一 故侯爵ノ生家ニ關スル書類
- 第二 故侯爵ノ家政ニ關スル書類
- 第三 故侯爵關係ノ内外新聞雜誌切抜
- 第四 故侯爵ノ薨去ニ關スル書類
- 第五 故侯爵ニ關スル談話及記事類
- 第六 外交關係書類
- 第七 現侯爵宛書簡類
- 第八 傳記編纂計畫ニ關スル書類
- 第九 以上ノ外ニ屬スル雜書類
- 第一〇 寫真類
- 第一一 書籍雜誌類

外務省

7-0284

0288

- 第一 故侯爵ノ生家ニ關スル書類
- 一 伊東家系ニ關スル記事（安井小太郎氏ヨリ送）一綴
- 二 小村家系圖寫壹封
- 三 系圖外數項目ニ關スル一ツ書一綴
- 四 故侯爵祖母ニ關スル記事（小王二平氏ヨリ送）壹通
- 五 徐卿二子歌寫壹封

外務省

9.8

- 第二 故侯爵ノ家政ニ關スル書類
- 六 『故小村侯爵御遺墨證書五通』ト題スルモノ壹封
- 七 故侯爵記『負債精算調書』壹通
- 八 小林浪五郎宛故侯爵外三名連帶借用證書（明治十八年十月卅一日付）壹通
- 九 高橋廣吉宛故侯爵借用證書（明治二十一年十月廿六日付）壹通
- 一〇 高橋廣吉外一名宛故侯爵外一名連帶借用證書（明治二十二年九月二十六日付）壹通
- 一一 高橋廣吉宛故侯爵外二名連帶借用證書（明治二十五年六月二十五日付）三通一綴
- 一二 第三 故侯爵關係ノ内外新聞雜誌切抜
- 一三 ポーツマス關係米國諸新聞切抜一束
- 一四 故侯爵關係諸記事所載新聞紙貳括
- 一五 故桂公爵薨去關係新聞切抜壹封

外務省

9.8

7-0284

0289

- 一五 『菊地博士關係切抜入』ト題セル新聞切抜壹封
- 一六 故山座圓次郎氏關係新聞切抜壹封
- 第四 故侯爵ノ薨去ニ關スル書類
- 一七 故侯爵病歴貳通
- 一八 聖上陛下ヨリノ御沙太書壹通
- 一九 貴族院ノ弔辭壹通
- 二〇 故侯爵墓誌石版摺參枚（年不詳六月十七日杉浦重剛書簡添）
- 二一 故侯爵薨去ニ關スル英佛諸新聞記事貳包
- 二二 飢肥ニ於ケル故侯爵葬儀供物記録壹册

外務省

- 第五 故侯爵ニ關スル談話及記事類
- 二三 「古老ノ談話」ト題セル寫本（大正六年二月六日）壹册
小村俊一ヨリ送
- 二四 故侯爵ノ外事新聞關係記事壹通
- 二五 故桂公爵談話要領綴（明治四十五年）壹通
四月三日付
- 二六 山本伯爵談話（明治四十五年）壹通
六月九日付
- 二七 古市男爵談話寫本壹册
- 二八 豐川良平氏談話寫壹册
- 二九 故齋藤修一郎氏述「懷舊談」ノ一節寫本壹册
- 三〇 「故侯爵知人訪問録」稻澤泰三外數氏談壹綴
- 第六 外交關係書類
- 三一 一日清講和談判ニ關シ歐洲諸國干涉ノ問題ノ件（明治二十八年五月八日付西公使ヨリ陸奧大臣宛報告寫）壹通
- 三二 遼東還附補償ニ關スル對三國通牒案英文壹通

外務省

7-0284

0290

- 三三 明治二十八年九月十三日發北京公使ヨリ西園寺大臣宛電報寫
壹通
- 三四 故加藤高明伯ヨリ在清故侯爵宛書簡 (明治三十四年) 壹通
五月十七日付
- 三五 故桂公爵ヨリ在清故侯爵宛書簡 (明治三十四年) 壹通
六月十一日付
- 三六 故林董伯談「日英同盟ノ真相」時事新報切抜一綴
- 三七 故伊藤公爵ヨリ故侯爵宛書簡 (年不詳) 壹通
十月二十九日付
- 三八 故侯爵自筆外交計畫項目一ツ書參枚
- 三九 第二次桂内閣ノ外交根本方針案參通
- 四〇 倉地鐵吉氏記、朝鮮併合ニ關スル書類 (大正二年) 壹通
三月十日付

外務省

- 第七 現侯爵宛書類
- 四一 平山男爵書簡五通入壹封
- 四二 故杉浦重剛氏書簡 (年不詳十一月七日付) 參通
大正十年十一月二十五日付
- 四三 豐川孝一氏書簡 (大正十年十一月二十四日付) 壹通
- 四四 故侯爵十年祭ニ關スル故穂積男爵書簡 (大正十年十一月二十三日付) 壹通
- 四五 兒玉一遠氏書簡 (明治四十四年) 壹通
十一月二十五日付
- 四六 各種書簡貳拾壹通 (大正十三年十月二十二日) 壹括
封書一括ノモノヲ加フ
- 四七 故侯爵一年祭ニ關スル倉地鐵吉氏書簡 (大正元年) 壹封
十一月一日付
- 四八 第八 傳記編纂計畫ニ關スル書類
- 四九 故侯爵履歷書類 (外務省記録寫) 壹綴
- 五〇 故侯爵履歷貳通
- 五〇 故侯爵年譜壹綴

外務省

7-0284

0291

- 五一 「家傳關係」(大正元年十月) 壹册
- 五二 「傳記用寫真目錄」 壹通
- 五三 「傳記資料目錄」(大正九年七月調) 壹通
- 五四 「傳記資料目錄」(書籍及記錄) 壹通
- 五五 故侯爵知人名簿 (大正元年十月二日) 壹枚
落合謙太郎氏ヨリ送
- 五六 家傳關係人名簿 (大正元年十月四日) 壹枚
杉浦重剛氏ヨリ送
- 五七 故侯爵知人名簿 壹綴
- 五八 同上イロハ別人名簿 壹綴
- 五九 「第二號」ト記セル雜項目ニ關スル一ツ書 壹綴
- 六〇 「丙號」ト記セル年不詳四月二十七日附雜項目ニ關スル一ツ書 壹綴
- 六一 「諸家訪門ニ付」ト題セル一ツ書 壹綴
- 六二 「落合氏御手記ノ分」ト題セルモノ外數項目一ツ書 壹綴

外務省

- 第九 以上ノ外ニ屬スル雜書類
- 六三 故杉浦重剛氏記、新聞計畫書 (明治二十年四月) 壹通
- 六四 第一軍管民政誌 (明治二十八年九月) 壹通
- 六五 故山縣公爵ヨリ在露侯爵宛書簡 (明治三十五年五月) 壹通
- 六六 舊飢肥藩内有志ヨリ故侯爵ニ送レル頌德狀 (明治三十五年三月九日) 壹通
- 六七 故侯爵ノ佛語練習帳貳册
- 六八 明治三十八年七月乃至三十九年一月故侯爵ノ拜領セル勅語寫
- 六九 故侯爵自筆電信案 (私信) 六通
- 七〇 故侯爵書籍注文控 壹綴
- 七一 報知新聞所載 (明治四十二年) 「現代之風雲兒」ノ一節 壹綴
- 七二 國際火學院ヨリ故侯爵ニ贈レル「メタル」添狀 (一九一一年三月二十五日付) 壹枚

外務省

7-0284

0292

- 七三 ストーン著「記者生活五十年」一節壹通
- 七四 現侯爵韓國併合記念章授與辭令壹通
- 七五 故侯爵葉山別莊圖面一筐
- 七六 明治四十一年頃在英大使館諸領收證書壹封
- 第一〇 寫真類 但シ本傳中ニ挿入スベキモノハ別ニ載セテ
乙號第一卷目次中ニアリ
- 七七 故侯爵幼少時代寫真四枚及寫生畫壹枚壹封
- 七八 故侯爵寫真箱三箇紙包四個
- 七九 故侯爵大型寫真貳枚
- 八〇 故侯爵大型寫真（故木野子爵ト共寫）壹枚
- 八一 北清事件講和會議場寫真壹枚
- 八二 日露戰役關係寫真六拾枚箱入壹筐
- 八三 ポーツマス講和會議場寫真大型貳枚
- 八四 ポーツマスニ於ケル故侯爵關係寫真拾七枚箱入壹筐

外務省

9.3

- 八五 葉山寫生畫拾枚
- 八六 寫真鏡二組筐入壹筐

外務省

9.3

7-0284

0293

第一一 書籍雜誌類

- 八七 三條實美公履歷（伯爵東久世通禧卿詞書） 自第一五册貳部 至第五五册貳部
- 八八 島津久光公實紀（岩崎宰著） 自第一八册 至第八八册
- 八九 松雲公小傳（藤間作太郎著）壹册
- 九〇 伯爵佐野常民傳（日本赤十字社編輯）壹册
- 九一 南部中尉（菊地悟郎編纂）壹册
- 九二 福堂遺稿（中田敬義編輯）壹册
- 九三 由利公正（芳賀八彌著）壹册
- 九四 承陽大師御傳記（弘津說三編）壹册
- 九五 恩輝軒主人小傳（橋本五雄編）壹册
- 九六 中等日本歴史（大森金五郎著）壹册
- 九七 永原鉦作氏執筆「小村壽太郎傳」原稿寫本壹部
- 九八 永原鉦作氏執筆「小村壽太郎傳」印刷本貳拾部
- 九九 公爵桂太郎傳（徳富猪一郎編）乾坤貳册

外務省

0.3

- 一〇〇 谷干城遺稿（島内登志衛著）上下貳册
- 一〇一 自然ノ人小村壽太郎（榎本卯平著）壹册
- 一〇二 聖代四十五年史（物集高量外三名著）壹册
- 一〇三 矢野二郎傳（島田三郎著）壹册
- 一〇四 大警視川路利良君傳（鈴木蘆堂著）壹册
- 一〇五 コロストヴェツツ日露講和談判記事壹册
- 一〇六 大學學生溯源（橋南漁郎著）上下貳册
- 一〇七 佐佐木高美大人（猪狩又藏著）壹册
- 一〇八 現代之風雲兒（摩天樓主人著）壹册
- 一〇九 熱血鐵火英雄傳（兒玉花外著）壹册
- 一一〇 立志奮勵大臣ノ書生時代（墨堤隱士著）壹册
- 一一一 朝鮮統治ニ對スル私見（蟻生十郎著）壹册
- 一一二 中學世界（明治四四、七、一發行）四册
- 一一三 日本魂（大正六、七、一發行）參册

外務省

0.3

7-0284

0294

一一四 冒險世界 (大正七、九、一發行) 貳冊
 一一五 新修卷 (大正二、三、一發行) 貳冊
 一一六 ジャパンマガジン (大正二、三、一發行) 貳冊
 一一七 武俠世界 (大正二、七、一發行) 貳冊
 一一八 獨立評論 (大正二、一〇發行) 貳冊
 一一九 中央公論 (大正二、四、一發行) 參冊
 一二〇 校友會誌 (日本中學校校友會) 明治四四、一一、三〇發行
 一二一 稱好塾報 (明治四四、一二發行) 貳冊
 一二二 實業時報 (大正三、四、二五發行) 壹冊
 一二三 愛國主義 (大正二、一發行) 壹冊

外務省

一二四 太陽 (大正二、一一號) 壹冊
 一二五 正論 (大正二、一二、五發行) 壹冊
 一二六 新正論 (大正二、九、一〇發行) 壹冊
 一二七 現代 (大正三、二、一發行) 壹冊
 一二八 成功 (明治四五、二號) 壹冊
 一二九 戰事時報 (大正七、六、二〇發行) 壹冊
 一三〇 モンスリー (大正三、二、一發行) 壹冊
 一三一 愛國新聞 (大正六、三、一〇發行) 五部
 一三二 法學新報 (大正元年一〇、一發行) 壹冊
 一三三 會報 (飲肥英育會) 大正三、四發行 壹冊
 一三四 道 (大正三、八、一發行) 壹冊

外務省

7-0284

0295

第五號

故侯爵傳記編纂資料目錄（追加ノ分）

- 第一 故侯爵ノ生家ニ關スル書類
- 第二 故侯爵ノ薨去ニ關スル書類
- 第三 現侯爵宛書翰類
- 第四 以上ノ外ニ屬スル雜書類
- 第五 書籍雜誌類

第一 故侯爵生家ニ關スル書類

- 一 安井朝康撰文壹通及比江島氏記事壹通

外務省

9.3

第三 故侯爵薨去ニ關スル書類

- 一 故侯爵葬儀順序 壹通
- 二 故侯爵葬儀列書 壹通
- 三 故侯爵葬場祭詞寫壹封
- 四 故侯爵一年祭々文壹通
- 五 平山男爵初草壹通
- 六 故小村侯百日祭作「ト題スル平山男爵拜草壹通
- 七 故伊集院男爵ノ吊文寫共貳通
- 八 故伊集院男爵ノ書簡（十一月廿六日）壹通
- 九 高橋是清氏ノ書簡（明治四十四年十二月廿五日）壹通
- 一〇 添田壽一氏ノ書簡（十二年不詳十二月廿一日）壹通
- 一一 長倉鶴巢氏ノ吊文壹通
- 一二 故巖谷孫藏氏ノ誄詞壹通

外務省

9.3

7-0284

0296

- 一四 故石川安次郎氏ノ吊文壹通
- 一五 飲肥代表者高山眞平氏ノ吊辭壹通
- 一六 家永豊吉氏ヨリ倉地鐵吉氏ヘ托送吊辭 (明治四十四年) 壹通
- 一七 諸外國公使等吊辭ト題スル壹封
- 一八 米國絹糸協會ノ吊辭ニ對スル現侯爵ノ謝狀英文寫貳通
- 第三 現侯爵宛書簡類
 - 一九 襲爵及除服出仕ト題スル壹封
 - 二〇 平山男爵書簡 (年不詳) 壹通
 - 二一 故伊集院男爵書簡 (年不詳) 壹通
 - 二二 江木翼博士書簡 (九月十八日) 壹通
 - 二三 故侯爵米國留學ヨリノ歸朝期ニ關スル安井小太郎氏書簡 (三年) 月不詳) 壹通
 - 日附
- 二四 日本興業銀行吉川氏書簡 (年不詳) 壹通

外務省

- 二五 小村良平氏葉書壹通
- 第四 以上ノ外ニ屬スル雜書類
 - 二六 故侯爵ニ對スル露國勳記寫貳通
 - 二七 永原鉦作氏ノ揮毫貳枚
 - 第五 書籍雜誌類
 - 二八 越山遺稿 (芳川顯正著) 壹册添書共
 - 二九 成功談俱樂部 (大正十四、五、一發行) 壹册
 - 三〇 三十七八年役ト外交 (徳富猪一郎著) 壹册

外務省

7-0284

0297

侯爵小村壽太郎傳 未定稿

目次

緒論

- 一 國歩艱難ニシテ偉人ヲ懷フ
- 二 外交部面ノ人材
- 三 明治聖代ノ五大外交家
- 四 天ヲ摩スル巨材
- 五 陸奥之侯
- 六 侯ノ外交ニ一貫セル條路
- 七 國民ノ對外思想ノ變化
- 八 外交ノ基礎觀念
- 九 侯ノ國家主義及ヒ帝國主義
- 一〇 理想ト實行力
- 一一 外交ノ秘密

外務省

- 一二 宰相ノ器
- 一三 誠ノ一字
- 一四 寺内朝鮮總督ノ追懷
- 一五 國士ノ典型
- 一六 歴史ハ再演ス

第一編

第一章 幼少時代

- 一 出生
- 二 日向ノ神秘崇虔
- 三 飢肥
- 四 伊東氏ノ事歴
- 五 伊東氏日向ニ入ル
- 六 飢肥ノ爭奪

外務省

7-0284

0298

- 七 飢肥伊東氏ニ復歸ス
- 八 文教ノ叢淵
- 九 安井息軒
- 一〇 小村家
- 一一 欲及和尚ノ譏
- 一二 庭訓
- 一三 振徳堂
- 一四 飢肥ノ盆踊
- 一五 振徳堂ノ學風
- 一六 稻澤ノ私塾
- 一七 梅檀ハ二葉ヨリ香バシ
- 一八 記憶力ノ絶倫
- 一九 振徳堂ニ入塾
- 二〇 將命

外務省

- 二一 寮ノ課程
- 二二 守永彌六
- 二三 和田勇
- 二四 小倉處平
- 二五 博士フエルベルク
- 二六 知遠館
- 二七 先考侯ノ遊學ニ同意ス
- 二八 長崎遊學
- 二九 藝妓下角觥
- 三〇 上京
- 第二章 大學南校ヨリ米國留學時代
- 一 大學南校
- 二 貢進生
- 三 英學第三級ニ入ル

外務省

7-0284

0299

- 四 高橋是清子ル英語教師
- 五 南校ノ改革
- 六 御前講演
- 七 開成學校法學部ニ入ル
- 八 開成學校寄宿舎
- 九 學侶ノ性癖
- 一〇 小村バツト
- 一一 小村參議
- 一二 海外留學熱
- 一三 第一回文部省留學生
- 一四 渡米
- 一五 ハイヴアード大學ニ入ル
- 一六 侯ト金子子
- 一七 卒業ヨリ實務

外務省

9.3

- 一八 歸朝
- 一九 歸省
- 二〇 小倉既ニ在ラズ
- 二一 小倉存命セバ大隈歟
- 第三章 司法官時代
- 一 司法官出身ノ偉材
- 二 司法省ト藩閥關係
- 三 侯ノ司法省出仕
- 四 大阪へ赴任
- 五 司法省トシテノ侯
- 六 大審院ニ轉ズ
- 七 結婚
- 八 令嗣生マル
- 九 一女ヲ擧グ

外務省

9.3

7-0284

0300

- 第四章 外務省翻譯局時代
- 一 外務省ニ入ル
 - 二 外務省公信局
 - 三 翻譯局次長トナル
 - 四 當年ノ外務省内外ノ顔振
 - 五 隔世ノ感アリ
 - 六 英法講師
 - 七 法科大學長ニ擬セラレ
 - 八 翻譯局長ニ昇任
 - 九 井上外務卿ノ條約改正開談
 - 一〇 法律取調所
 - 一一 歐化主義一世ニ靡ク
 - 一二 鹿鳴館ノ假裝舞踏會
 - 一三 國粹保存論ノ勃興

外務省

9.3

- 一四 「日本」新聞創刊
- 一五 井上案ノ頓挫
- 一六 大隈ノ強硬外交
- 一七 大隈英國公使ニ利害ヲ力説ス
- 一八 大隈案ノ挫折
- 一九 反對軍ノ中堅
- 二〇 大津事件ニ關スル意見
- 二一 家賃落下
- 二二 侯ノ家庭
- 二三 悶ヲ外ニ遣ル
- 二四 廳室ヨリ酒樓へ
- 二五 免黜ノ詮議僅ニ免カル
- 二六 清貧自若
- 二七 侯ノ居宅

外務省

9.3

7-0284

0301

- 二八 登廳辨當ヲ拒マル
- 二九 彼レ到底尋常人ニ非ズ
- 三〇 本郷ニ轉居
- 三一 債鬼追躡
- 三二 借リルハ高利貸ノ金ノミ
- 三三 舊友ノ俠舉
- 三四 負債精算調書
- 三五 貸金ノ糶下ゲ
- 三六 借金整理ノ妙法
- 三七 虚偽ヲ語ラザルニアリ
- 三八 債務關係ノ證書手束
- 三九 五事御誓文ノ英譯
- 四〇 侯ト外交官試験制

外務省

第二編

第五章 日清戦役時代

第一款 外交官トシテ初舞臺

- 一 外交官ノ初舞臺
- 二 陸奥初メテ侯ヲ識ル
- 三 糸瓜ト南瓜
- 四 侯清國赴任ニ満足ス
- 五 駐清大鳥公使ノ朝鮮兼任
- 六 侯ノ抱負
- 七 渡清ノ途ニ上ル
- 八 途次歸省
- 九 襄中復タ空シ
- 一〇 上海ヲ經テ天津着
- 一一 北京着任

外務省

7-0284

0302

- 一二 代理公使トナル
- 一三 清國事情ノ研究
- 一四 李鴻章トノ接觸
- 一五 東學黨ノ亂
- 一六 帝國政府ノ對策
- 一七 陸奧ト川上ト靈犀相通ズ
- 一八 廟等ノ敏活ナル措置
- 一九 清國ノ誤斷
- 二〇 清國ノ出兵
- 二一 我國ノ出兵
- 二二 外交ノ一進轉
- 二三 清國ノ態度
- 二四 侯ノ透察力
- 二五 侯ノ徹底セル對時局觀

外務省

9. 3

- 二六 先見炬ノ如シ
- 二七 第三國ノ態度
- 二八 英國
- 二九 露國
- 三〇 米國
- 三一 國交斷絶
- 三二 侯ノ明斷而シテ敏
- 三三 北京撤退
- 第二款 民政長官ヨリ政務局長
- 一 占領地行政
- 二 侯ノ從軍
- 三 輜重ノ困難
- 四 第一軍管民政廳ノ組織權限
- 五 侯民政長官トナル

外務省

9. 3

7-0284

0303

- 六 侯ノ禁令五條
- 七 其ノ他各種諭告
- 八 民人悦服ス
- 九 山縣、桂兩將軍ノ知過
- 一〇 鬼大佐怒ル
- 一一 豪膽小軀ニ似ズ
- 一二 酒席ノ侯
- 一三 辨理公使トナル
- 一四 歸朝
- 一五 民政狀況ノ奏聞
- 一六 或ハ云フ北京撤退始末ノ奏聞ト
- 一七 破格ノ敘勳
- 一八 政務局長ニ轉ズ
- 一九 清國講和使ノ來朝

外務省

9.8

- 二〇 對清通商特權ニ關スル侯ノ意見
 - 二一 講和條件提出方式
 - 二二 ポーツマス談判トノ對照
 - 二三 三國干涉トウキツテ
 - 二四 侯露國公使ヲ引見ス
 - 二五 侯賜望扶斯ヲ患フ
 - 二六 容貌一變
 - 二七 次男捷治氏出生
- 第六章 駐韓公使時代
- 一 朝鮮内政改革勸告ノ反應
 - 二 井上公使ノ入韓
 - 三 三浦子代ツテ駐韓公使トナル
 - 四 井上ノ生帳面ト三浦ノ横着
 - 五 韓廷ノ情勢

外務省

9.8

7-0284

0304

- 六 十月八日事變
- 七 侯ノ渡韓
- 八 侯駐韓公使トナル
- 九 事變關係者ノ退韓
- 一〇 廣島ノ疑獄
- 一一 侯ノ善後努力
- 一二 訓練隊ノ處分
- 一三 井上前公使ノ渡韓
- 一四 韓廷ノ善後措置
- 一五 各國使臣間ニ於ケル侯ノ勢力
- 一六 侯ノ韓廷内政改革ノ眼目
- 一七 侯ノ日韓貿易觀
- 一八 外國公使ノ狹量
- 一九 十一月二十八日事變

外務省

- 二〇 該事變ト露米兩國
- 二一 二月十一日事變
- 二二 我が勢力ノ失墜
- 二三 侯ノ不明ヲ責ムルハ當ラズ
- 二四 侯ノ善後意見
- 二五 日露協商案
- 二六 侯露國公使ト開談ス
- 二七 日露覺書ノ成立
- 二八 國王還宮ノ困難
- 二九 日露議定書ノ調印
- 三〇 日露覺書及ビ議定書ノ公表
- 三一 原敬氏ト代ツテ外務次官トナル

第七章 外務次官時代
第一款 侯歸朝後ノ韓京政局

外務省

7-0284

0305

- 一 依然日露ノ角逐
- 二 駐韓日露公使ノ更迭
- 三 京城ニ於ケル英露ノ衝突
- 四 露韓密約及ビ其ノ内容
- 五 露國ノ高壓的態度
- 六 排露熱ノ昂騰
- 七 露國ノ退讓
- 八 日露更ニ意見ヲ交換ス
- 九 滿韓交換案
- 一〇 露國ノ不同意
- 一一 第二回日露議定書案
- 一二 其ノ調印
- 一三 第二款 支那ニ於ケル列國ノ活動
- 一四 露國ノ售恩

外務省

9.3

- 一〇 密約締結始末世ニ露ハル
- 一一 東清鐵道
- 一二 佛國ノ要求
- 一三 英國ノ對抗
- 一四 蘆漢鐵道問題
- 一五 英國ノ抗議
- 一六 西比利鐵道ノ北滿洲橫斷計畫
- 一七 李鴻章遣露使節トナル
- 一八 露廷ノ優遇
- 一九 ウキツテ李ト折衝ス
- 二〇 露清同盟密約ノ調印
- 二一 其ノ内容
- 二二 擬想敵國ハ日本
- 二三 謂ユルカシニ一條約

外務省

9.3

7-0284

0306

- 一六 鐵道敷設區域ニ關スル英露ノ協商
- 一七 獨國ノ膠州灣租借
- 一八 露國ノ當惑
- 一九 我國ノ態度
- 二〇 侯ノ述懐
- 二一 露國ノ旅順占領
- 二二 旅順大連ノ租借
- 二三 遼東舉ゲテ租借
- 二四 英國ノ威海衛租借
- 二五 福建不割讓ノ保障
- 二六 伊國ノ三門灣要求
- 二七 米國ノ門戶開放提議
- 二八 列國ノ回答
- 二九 該提議ニ關スル侯ノ觀察

外務省

は(1)

9. 3

- 三〇 極東ノ新形勢
 - 第三款 米布合併ノ對策
 - 一 米布合併案ノ經過
 - 二 合併條約案ノ調印
 - 三 侯ノ感慨
 - 四 帝國政府ノ抗議
 - 五 星公使ノ獻策
 - 六 政府ノ不採用
 - 七 米國政府ノ辯明
 - 八 再度ノ照覆
 - 九 我が讓歩
 - 一〇 米國議會ノ合併決議
 - 一一 合併實行
 - 一二 帝國政府ノ希望披陳

外務省

9. 3

7-0284

0307

- 一三 移民上陸拒絶事件
 - 一四 軍艦浪速ノ派遣
 - 一五 其ノ是非
 - 一六 交渉ノ曲折
 - 一七 其ノ解決
 - 一八 移民送還損害調査委員
- 第四款 黨渦ノ外ニ去ル
- 一 外交機關整頓ノ時期
 - 二 松隈内閣ノ人材濫用
 - 三 駐韓公使ノ詮議
 - 四 侯下憲政黨内閣
 - 五 侯入黨ヲ拒絶ス
 - 六 侯ノ政黨觀
 - 七 侯西男ノ憲法中止論ヲ評ス

外務省

9.3

- 八 政黨政治ニ充分ノ理解
 - 九 駐米公使ニ轉ズ
 - 一〇 侯鳩山ノ次官ニ安意ス
 - 一一 憲政黨内閣ノ夭折ニ關スル侯ノ所見
 - 一二 侯ト日本俱樂部
 - 一三 米國赴任
- 第八章 駐米公使時代
- 一 着任
 - 二 米西戰爭ノ收局
 - 三 侯ノ報告肯綮ニ中ル
 - 四 米西講和條約批准及ビ比律賓問題ノ經過
 - 五 米布合併ノ善後
 - 六 依然タル一老書生
 - 七 讀書癖

外務省

9.3

7-0284

0300

- 八 清廉素樸
- 九 私的生活ト公的容儀
- 一〇 侯隨員ト見誤ラル
- 一一 侯ノ諧謔
- 一二 侯ト副島蒼海
- 一三 加藤子トノ皮肉戰
- 一四 侯ノ米國觀
- 一五 片言零語亦味フベシ
- 一六 新任國ニ向フ
- 一七 侯ノ南阿戰爭觀
- 一八 先考ノ逝去
- 第九章 駐露公使時代
- 一 着任
- 二 露國ノ修習

外務省

- 三 日々理髮師ヲ招ク
- 四 事務室ヲ觀ケルコト僅ニ一回
- 五 露皇太后天津事件ヲ懷敘ス
- 六 閑院宮殿下ノ御訪露
- 七 露國外相ノ頓死
- 八 侯禮ニ厚シ
- 九 ムラヴィエフトイスヴオルスキ
- 一〇 侯露都外交界ニ重ンゼラル
- 一一 北清事變ト國民同盟會
- 一二 侯清國駐劄ノ命ヲ受ク
- 一三 侯南露ヲ視ル
- 一四 バイダルノ奇勝雄景
- 一五 莫須科ノ美酒佳肴
- 一六 露都離去

外務省

7-0284

0309

- 一七 北京會議ハ大切
 - 一八 侯ノ露人觀
 - 一九 侯憂國ノ二三子ト語ル
 - 二〇 北京赴任
 - 二一 義和團ノ公使
- 第十章 駐清公使時代
- 第一款 義和團ノ騷亂
- 一 外交舞臺ノ名優
 - 二 義和團蜂起ノ由來
 - 三 團匪迫ル
 - 四 獨國公使及ビ杉山書記生ノ遭難
 - 五 英國ノ日本出兵勸告
 - 六 我國ノ踟躕
 - 七 侯ノ稟議

外務省

は(3)

0.3

- 八 獨國ノ動作
 - 九 露國ノ軍事的活動
 - 一〇 北京ノ攻陷
- 第二款 善後ノ折衝
- 一 露國ノ宣明
 - 二 清廷ノ講和態度
 - 三 列國ノ態度
 - 四 侯ノ露國ノ政策ニ對スル觀測
 - 五 佛國ノ提議
 - 六 其ノ討議
 - 七 連名公書ノ提出
 - 八 講和會議第二期ト侯ノ活腕
 - 九 清國委員ノ覺書
 - 一〇 元兇處罰問題

外務省

0.3

7-0284

0310

- 一一 賠償金問題
- 一二 侯ノ意見書
- 一三 侯ノ財源調査覺書
- 一四 財政調査委員會ノ審了
- 一五 要求統額
- 一六 仕拂法、起債法、財源
- 一七 侯ノ割増要求意見
- 一八 右ニ關スル覺書
- 一九 侯ニ對スル政府ノ信任
- 二〇 賠償額ノ決定
- 二一 其ノ他雜件
- 二二 最終議定書調印
- 二三 派獨特使
- 二四 派日特使

外務省

0.3

- 二五 占領軍隊ノ撤退
- 二六 總理衛門ノ改革
- 二七 露國ノ譎詐的外交

第三編

第十一章 第一次外務大臣時代

第一款 二流内閣ノ一流功績

- 一 桂内閣ノ成立
- 二 桂内閣ノ外相候補者
- 三 桂ノ侯ヲ侯ツヤ切
- 四 桂内閣ニ對スル世人ノ期待
- 五 桂内閣ノ外交上ノ抱負
- 六 侯外務大臣トナル
- 七 舉世如何ニ侯ヲ迎ヘシカ
- 八 評價ハ時機尙早

外務省

0.3

7-0284

0311

- 九 原敬等ノ招宴悪戯
- 一〇 恬淡寡慾
- 一一 大業ヲ目睫ニ扣ユ
- 一二 近衛公ノ倚信
- 一三 北清事件ノ善後處理
- 一四 天津還附
- 一五 上海撤兵
- 第二款 滿洲問題ノ前半
- 第一項 露清密約ノ打破
- 一 鐵腕ノ按試
- 二 露軍ノ滿洲占領
- 三 滿洲占領ノ辯疏
- 四 英獨協商
- 五 露國ノ態度

外務省

9.3

- 六 英獨協商ノ骨拔
- 七 旅順約定
- 八 露清談判露都ニ移ル
- 九 露國政府ノ辯明
- 一〇 露國ノ要求條件
- 一一 侯ノ有益ナル報告
- 一二 帝國政府ノ態度
- 一三 劉張兩總督ノ憂慮
- 一四 露國協約案ヲ提出ス
- 一五 帝國政府ノ對清警告
- 一六 調印ノ切迫
- 一七 清國ノ苦境
- 一八 帝國政府ノ對露勸告
- 一九 協約案ノ撤廢

外務省

9.3

7-0284

0312

- 二〇 清國ハ我方政府ニ感謝シ、政府ハ侯ニ感謝ス
- 二一 露國ノ事實的占領
- 二二 滿洲開放案ノ頓挫
- 二三 桂内閣ノ滿洲保全案
- 二四 滿洲問題ノ展開
- 第二項 滿洲還附協約成ル
- 一 露清談判ノ再開
- 二 侯一釘ヲ打ツ
- 三 露國提議ノ要目
- 四 侯ノ警告
- 五 露國提議ノ詳細
- 六 侯ト露國外相トノ意見交換
- 七 日英米三國公使ノ警告
- 八 露國提出ノ協約案

外務省

- 九 清國ノ修正案
- 一〇 侯ノ助言
- 一一 露清銀行トノ契約案
- 一二 國民同盟會ノ意見書
- 一三 侯ノ憂國ハ同盟會以上
- 一四 日英米三國ノ警告
- 一五 露清協約ノ締結
- 一六 露國ノ不誠意
- 第三款 日英協約ノ締結
- 第一項 同盟交渉ノ發端
- 一 劈頭第一ノ大功績
- 二 日英同盟ト林董伯
- 三 日英同盟ト加藤子及ビ西男
- 四 日露提携談

外務省

7-0284

0313

- 五 英國側ノ反響
 - 六 在倫敦獨國代理大使ノ日英獨三國同盟說
 - 七 加藤外相北京ノ侯ニ意見ヲ徵ス
 - 八 英國政府ノ意向試探
 - 九 林公使ノ同盟基礎案稟申
 - 一〇 桂内閣成ル
 - 一一 長雲閣ノ密議
 - 一二 林公使ヘノ訓電
 - 一三 意見交換ノ開始
- 第二項 同盟交渉ノ經過
- 一 侯夙ニ桂ト所見ヲ同フス
 - 二 公的交渉ノ開始
 - 三 英國案ノ要旨
 - 四 伊藤ノ外遊

外務省

9. 3

- 五 其ノ抱負
- 六 伊藤ト桂ノ各對露對英意見
- 七 伊藤ト林ノ巴里會談
- 八 伊藤ノ對英國案意見
- 九 林ノ疑惑
- 一〇 英國外相ノ不安
- 一一 伊藤ノ日露協商案
- 一二 露國側ノ意向
- 一三 伊藤ノ行動偶然日英同盟ノ成功ヲ助ク
- 一四 帝國政府ノ修正案
- 一五 元老會議ノ一致
- 一六 侯ノ意見書
- 一七 伊藤ノ對修正案意見
- 一八 修正案ノ聖斷

外務省

9. 8

7-0284

0314

- 一九 英國政府へ提出
 - 二〇 英國政府ノ意見
 - 二一 韓國問題
 - 二二 英國政府ノ更正原案
 - 二三 帝國政府ノ修正意見
 - 二四 韓國問題ノ解決
 - 二五 協約適用範圍問題
 - 二六 獨國加入問題
 - 二七 同盟公表問題
- 第三項 同盟協約ノ成立
- 一 協約ノ調印
 - 二 列國へノ通牒
 - 三 獨國ノ態度
 - 四 米國ノ態度

外務省

9. 8

- 五 露國我レニ惡感ヲ有セズ
 - 六 侯ノ勳績
 - 七 機密ノ嚴守
 - 八 鄭黨侯ノ偉勳ヲ頌ス
- 第四款 滿洲問題ノ後半及ビ日露ノ開戰
- 第一項 露國ノ滿洲撤兵不實行
- 一 列國ノ監視
 - 二 第一期撤兵ノ實行
 - 三 第二期撤兵ノ不實行
 - 四 撤兵不實行ニ關スル露國政府部内ノ異論
 - 五 撤兵不實行ト清國
 - 六 露國ノ新要求
 - 七 帝國政府ノ對清警告
 - 八 英米兩國ノ警告

外務省

9. 8

7-0284

0315

- 九 清國ノ態度
- 一〇 クロバトキン將軍ノ東遊
- 一一 ウキツテノクロバトキン評
- 一二 侯ト將軍トノ會談
- 一三 桂ノ將軍觀
- 一四 旅順會議
- 一五 ヴオガツク少將
- 一六 ベソブラソフノ人物
- 一七 旅順會議後ノ露國
- 一八 極東總督府ノ設置
- 一九 露國ノ新々要求
- 二〇 露國ノ不撤兵言明
- 二一 露兵ノ奉天占領
- 二二 露兵ノ北韓活動

外務省

9.3

は(イ)

- 二三 ウキツテノ韓國拋棄論
- 二四 韓國ノ態度
- 二五 帝國政府ノ抗議
- 二六 英米兩國公使ノ對韓勸告
- 第二項 日露ノ交渉
- 一 日露ノ行動ト帝國ノ利害
- 二 對露交渉ノ廟議
- 三 我が政局ノ變改
- 四 交渉開始ト英國
- 五 英國ノ所見
- 六 露國ノ意向
- 七 協商基礎案ノ提出
- 八 難關既ニ見ユ
- 九 交渉地問題

外務省

9.3

は(イ)

7-0284

03 16

- 一〇 露國ノ對案
- 一一 交渉ノ開始
- 一二 我が修正案
- 一三 我が確定修正案
- 一四 對露同志會ノ活躍
- 一五 鐵砲玉ヲ放ツ迄ガ容易デナイ
- 一六 桂對露同志會ノ領袖ニ諭ス
- 一七 露國ノ修正對案
- 一八 帝國政府更ニ提議ス
- 一九 露國ノ軍事行動
- 二〇 露國主戰派ノ優勢
- 二一 ベソブラゾフノ陰謀
- 二二 露國ノ覆答
- 二三 其ノ專横驕恣

外務省

- 二四 侯ノ決心
- 二五 我が最終修正意見
- 二六 一絲紊レザル侯ノ外交戰術
- 二七 露國ノ回答遷延
- 二八 一月二十八日ノ露國大臣會議
- 二九 露國官廷外交ノ弊竇
- 三〇 露國ノ不誠意
- 第三項 交渉ノ斷絶
- 一 露國政府ノ喝政策
- 二 帝國政府ノ警戒
- 三 交渉斷絶ノ公文
- 四 國交亦斷ツ
- 五 兩國使臣ノ撤退
- 六 ローゼン公使ノ苦衷

外務省

7-0284

0317

- 七 同夫人昭憲皇太后ノ殊恩ニ感泣ス
- 第四項 交渉斷絶前ニ於ケル列國トノ關係
- 一 干涉防退ノ苦心
- 二 英國トノ諒解
- 三 米國トノ諒解
- 四 獨國ヘノ説明
- 五 佛國ノ調停計畫ノ挫折
- 六 交渉斷絶ノ通牒
- 第五款 侯ノ戰時外交
- 第一項 對露辨妄及ビ中立國ノ態度
- 一時局展開ノ苦心
- 二 日露ノ宣戰
- 三 末松金子兩子ノ英米特派
- 四 露國ノ譏誣

外務省

- 五 事實ヲシテ釋明セシメヨ
- 六 我が辨明
- 七 露國ノ韓國ニ關スル回牒
- 八 我が辯妄
- 九 海牙仲裁々判法廷ニ於ケル露國法相ノ私憤
- 一〇 駐米露國公使ノ日本攻撃
- 一一 歐米諸國ノ中立宣明
- 一二 米國人ノ熱烈ナル同情
- 一三 清國ノ中立問題
- 一四 米英獨三國政府ノ希望
- 一五 日清兩國間ノ照覆
- 一六 清國ノ中立嚴守ノ宣明
- 一七 露艦武裝解除及ビ捕獲問題
- 一八 マンチユール號事件

外務省

7-0284

03 18

- 一九 ツエザレウキツチ號事件
 - 二〇 デイアナ號事件
 - 二一 レシーテリヌイ號事件
 - 二二 侯列國ノ蒙ヲ啓ク
 - 二三 露國却ツテ清國中立違反ヲ云爲ス
 - 二四 我が辯明
 - 二五 佛國ノ中立態度
- 第二項 旅順陷落前後ニ於ケル講和論ノ推移
- 一 戦局拾收ノ苦慮
 - 二 旅順陷落前ノ講和談
 - 三 佛國ノ講和斡旋ノ失敗
 - 四 クロバトキンノ作戰計畫
 - 五 旅順陷落ト列國ノ講和論
 - 六 米國大統領ノ態度

外務省

- 七 其ノ活躍
 - 八 伏見官殿下ノ御渡米
 - 九 大統領ノ好意
 - 一〇 大統領ト獨帝
 - 一一 滿韓及ビ旅順ノ處分ニ關スル侯ノ意見
 - 一二 獨國筋ノ日英離間策
 - 一三 日英兩國ノ米國大統領トノ接觸保持
 - 一四 日英兩國ノ意見交換
 - 一五 英國ノ對獨疑惑消散ス
 - 一六 獨帝ノ露佛牽制
 - 一七 和議未ダ熟セズ
- 第三項 奉天會戰後ニ於ケル講和問題
- 一 露國ノ大敗ト列國ノ輿論
 - 二 佛國內ノ講和説

外務省

7-0284

03 19

- 三 ウキツテノ和議上奏
 - 四 駐米佛國大使ノ試探
 - 五 駐米獨國大使ノ露國續戰說鼓吹
 - 六 米國大統領ノ考案
 - 七 帝國政府ノ所見
 - 八 列國會議說
 - 九 列國會議說ト獨帝
 - 一〇 佛國ノ焦慮憂惧
 - 一一 我方廟議
 - 一二 佛米英諸國ヘノ内牒
 - 一三 大統領ノ在華府日露使臣豫備的會見案
 - 一四 波羅的艦隊ノ接近ト大統領ノ眞情
 - 一五 駐米露國大使及ビ駐韓米國公使ノ更迭事情
- 第四項 日本海々戰ヨリ米國大統領ノ和議斡旋

外務省

- 一 波羅的艦隊ノ殲滅ト列國ノ輿論
 - 二 講和ノ好時機
 - 三 帝國政府米國大統領ニ其ノ仲介ヲ干ム
 - 四 大統領ノ對露勸告
 - 五 大統領ノ斡旋ト獨帝
 - 六 露帝講和ノ勸告ヲ容ル
- 第六款 ポーツマス講和會議
- 第一項 愈々講和期ニ入ル
- 一 米國大統領ノ公然ノ和議勸告
 - 二 日露兩國政府ノ回答
 - 三 侯ノ獨佛兩國政府ヘノ挨拶
 - 四 豫議斡旋ノ依頼
 - 五 講和談判地及ビ講和全權問題
 - 六 露國回答ノ曖昧

外務省

7-0284

0320

- 七 右兩問題ノ經過
- 八 談判地問題ニ關スル大統領ノ對露態度
- 九 全權問題解決
- 一〇 大統領ノ誠意眞情
- 一一 大統領ト英國政府
- 一二 帝國政府講和委員ノ簡選
- 一三 露國講和委員
- 一四 大統領尙ホ獨帝ノ援助ヲ期待ス
- 一五 休戰問題
- 一六 ウキツテハ如何ナル人ゾ
- 一七 ウキツテノ選任事情
- 一八 談判地ノ最終決定
- 一九 侯勅語ヲ拜ス
- 二〇 侯ノ隨員

外務省

- 二一 露國側ノ隨員
- 二二 第二項 日露講和全權委員ノ渡米
- 一 侯夙ニ講和條件ノ考究ヲ怠ラズ
- 二 侯ノ講和條件私案
- 三 講和條件ノ決定
- 四 講和ノ前途樂觀ヲ許サズ
- 五 陸奥ノ日清役當時ノ感慨
- 六 外交家ノ苦境
- 七 桂ノ感謝ト同情
- 八 侯ノ決心
- 九 學友侯ニ餞ス
- 一〇 侯ノ渡米
- 一一 米國ニ於ケル侯ノ人氣
- 一二 大統領トノ會談

外務省

7-0284

0321

- 一三 大統領ノ深慮
 - 一四 米國陸軍長官一行ノ來朝
 - 一五 ウキツテノ着米
 - 一六 ウキツテト大統領トノ會談
 - 一七 大統領ト兩國全權委員ノ公式會見
 - 一八 豹ト牛
 - 一九 兩國全權ポーツマスニ着ス
- 第三項 談判ノ開始
- 一 講和會議所
 - 二 豫備會議ヨリ本會議
 - 三 會議室内ノ側面觀
 - 四 全權委任狀ノ交査
 - 五 候ノ用意周到
 - 六 講和條件ノ提示

外務省

9.3

- 七 世上誤論ノ一例
 - 八 ウキツテノ思慮決斷
 - 九 露國全權ノ回答
 - 一〇 韓國問題
 - 一一 滿洲問題
 - 一二 薩哈噠問題
 - 一三 遼車租借權問題
 - 一四 鐵道問題
 - 一五 軍費拂戻問題
 - 一六 抑留軍艦問題
 - 一七 極東海軍力制限問題
- 第四項 談判ノ難關
- 一 未了案件ノ行詰
 - 二 ウキツテノ讓歩的意見

外務省

9.3

7-0284

0322

- 三 露帝耳ヲ傾ケズ
- 四 露國ノ氣勢ト候ノ決意
- 五 海軍力制限及ビ抑留軍艦問題ノ撤回宣明
- 六 非公式的内會議ニ於ケル薩哈噠兩分案
- 七 其ノ代償問題
- 八 漁業權問題ノ議了
- 九 大統領露國全權ローゼンヲ招見ス
- 一〇 大統領露帝ニ代償妥協案ヲ勸薦ス
- 一一 ウキツテノ薩哈噠拋棄意見具申
- 一二 露國政府ノ談判打切ノ電訓
- 一三 大統領金錢非要求説ニ急下ス
- 一四 再度ノ内會議ヨリ本會議
- 一五 候妥協案ヲ公然提出ス
- 一六 ウキツテ受諾セズ

外務省

- 一七 露都ノ續戰論
- 一八 大統領更ニ露帝ニ勸告ス
- 一九 ウキツテノ決心
- 二〇 候ノ決心
- 二一 候愈々決心
- 二二 候ノ續戰意見電稟
- 二三 候ノ引揚準備成ル
- 二四 在滿洲日露兩軍ノ情勢
- 二五 國民ハ之ヲ辯識セズ
- 二六 ウキツテノ新聞操縱
- 二七 必シノ贊スルヲ須ヒズ
- 二八 而ノ我レ遲レヲ取レリ
- 二九 大統領ノ暗中采配
- 三〇 我が廟議ノ決定

外務省

7-0284

0323

- 三一 硬骨鐵腸ノ外交家
- 三二 最後讓歩
- 第五項 講和ノ成立
- 一 附帶細目ノ協定
- 二 休戦問題
- 三 韃靼海峽問題
- 四 撤兵方法及ビ鐵道保護問題
- 五 講和條約ノ調印
- 六 不満足者ハ雙方ニアリ
- 七 講和成立ト露帝
- 八 大局ノ達觀
- 九 民衆ノ暴動
- 一〇 谷子ノ着眼時流ヲ抽ク
- 一一 各國ヨリノ祝詞

外務省

- 一二 大統領獨帝ヲ多トス
- 一三 大統領ノ日露兩國使節觀
- 一四 侯病ム
- 一五 日醫米醫ヲ凹マス
- 一六 侯名書法學博士ノ稱號ヲ受ク
- 一七 歸朝
- 一八 勅語
- 一九 知巳ハ却ツテ西方ニ在リ
- 二〇 ウキツテ米國內地巡遊ノ計畫ヲ拋棄ス
- 二一 露帝ウキツテノ勳功ヲ嘉ミス
- 二二 而ノ君民共ニウキツテノ苦心ヲ解セズ
- 二三 講和條約ノ批准公布
- 二四 聖意炳トシテ日月ノ如シ
- 第六項 日露講和ト獨露密約

外務省

7-0284

0324

- 一 獨帝ノ日露講和ヲ切望シタル一理由
- 二 日露戦争ニ對スル獨帝ノ胸算
- 三 獨帝ノ獨露同盟計畫
- 四 獨帝之ヲ露帝ニ勸ム
- 五 露帝當初ハ靡カズ
- 六 ビュルキヨノ會見
- 七 露帝甘言ニ魔サル
- 八 獨露同盟密約成ル
- 九 同盟密約トウキツテ
- 一〇 密約ノ標的
- 一一 ウキツテトラムスドルフ密約ノ廢棄策ヲ講ズ
- 一二 露帝廢棄ニ同意ス
- 一三 廢棄ノ措置
- 一四 獨帝肯セズ

外務省

- 一五 密約ノ自然消滅
- 一六 第七款 日英同盟協約ノ改訂
- 一 同盟繼續ノ議
- 二 一轉シテ同盟擴張論
- 三 英國政府ノ試探
- 四 帝國政府ノ所見
- 五 英國外相同盟擴張意見ヲ提ス
- 六 駐英林公使ノ贊成意見
- 七 侯從來ノ方針ニ一進展ヲ加フ
- 八 侯ノ意見書
- 九 帝國政府ノ新協約案
- 一〇 商議ノ開始
- 一一 英國政府ノ對案
- 一二 帝國政府ノ修正案

外務省

7-0284

0325

- 一三 英國政府ノ第二對案
- 一四 韓國及ビ印度ノ兩問題
- 一五 兩問題ノ解決
- 一六 新協約ノ調印
- 一七 第一回協約トノ異同
- 一八 新協約ノ發表
- 一九 日英兩國ノ輿論贊同
- 第八款 家屋稅仲裁々判ノ敗訴
- 一 家屋稅問題ノ由來
- 二 桂內閣ノ方針決定
- 三 在留外國人ノ反抗
- 四 仲裁々判案
- 五 仲裁々判ノ提議及ビ交渉經過
- 六 仲裁々判議定書調印

外務省

9. 3

- 七 仲裁々判官ノ選定
- 八 陳辯書ノ提出期
- 九 我方陳辯書ノ作製及ビ提出
- 一〇 彼我論爭要點
- 一一 辯駁書ノ提出
- 一二 仲裁々判所ノ開廷
- 一三 判決
- 一四 帝國政府ノ敗訴
- 一五 本野裁判官ノ樂觀
- 一六 判決執行上ノ疑義
- 一七 閣議ノ決定
- 一八 西園寺內閣ノ引繼
- 一九 三國政府ノ抗議
- 二〇 第二次桂內閣ノ再引繼

外務省

9. 3

7-0284

0326

- 二一 侯ノ妥協案
- 二二 抗議反駁
- 二三 條約改正ト永代借地權
- 二四 永代借地權處分案
- 二五 對英交渉
- 二六 未解決ニテ退閣
- 第九款 日露講和ノ善後
- 第一項 ハリマン滿鐵買収案ノ粉塵
- 一 闇ヨリ闇ニ葬ラル
- 二 ハリマンノ胸算
- 三 其ノ渡米
- 四 其ノ提議
- 五 日米シンヂケトノ組織計畫
- 六 我が取消通牒

外務省

- 七 侯資本主義ノ東漸ヲ豫見ス
- 八 侯ハリマン案ヲ粉塵ス
- 九 日清協約トハリマン案ノ絶脈
- 一〇 南滿洲鐵道會社ノ成立
- 一一 ハリマン捲土重來セントス
- 一二 米國ノ清國債金減額
- 一三 唐紹儀ノ渡米
- 一四 其ノ使命挫折
- 一五 ハリマンノ遺圖
- 第二項 滿洲ニ關スル日清協約ノ締結
- 一 和局成立ノ大股落
- 二 對清交渉ノ根本方針
- 三 清國政府ノ意向
- 四 侯ト米英兩國ノ諒解

外務省

7-0284

0327

- 五 清國政府ノ煩悶焦慮
- 六 對清要求方針ノ決定
- 七 侯ノ渡清
- 八 清國政府ノ迎接
- 九 侯北京ニ入ル
- 一〇 宮廷ノ優待
- 一一 會議ノ開始
- 一二 侯使命ノ趣旨ヲ演述ス
- 一三 我ガ提案
- 一四 清國ノ對案
- 一五 清國ノ追加要求條件
- 一六 露英兩國公使ノ態度
- 一七 滿洲行政改善問題
- 一八 滿洲不割讓問題

外務省

- 一九 開市場新設問題
- 二〇 租借地及ビ長春以南鐵道問題
- 二一 安東奉天間鐵道問題
- 二二 奉天新民屯間鐵道問題
- 二三 長春吉林間鐵道問題
- 二四 大石橋營口間鐵道問題
- 二五 滿洲鐵道接續協議參加問題
- 二六 鴨綠江材木問題
- 二七 航通自由問題
- 二八 漁業權問題
- 二九 滿洲國境貿易問題
- 三〇 我ガ追加條款
- 三一 清國追加要求條件ノ討議
- 三二 鐵道守備兵撤退ノ要求ニ對スル侯ノ勵聲疾呼

外務省

7-0284

0328

- 三三 我ガ追加條款ノ討議
- 三四 交渉案件ノ議了
- 三五 談判中ノ戲言詭語
- 三六 協約ノ調印
- 三七 侯ノ歸朝及ビ辭職
- 第三項 對韓保護權ノ確立
- 一 第二回日露協商以後ノ日露對韓政策
- 二 韓國永世中立問題
- 三 日露關係ノ切迫ト韓國ノ中立喜劇
- 四 開戦ト露國公使ノ撤退
- 五 日韓議定書成ル
- 六 根本的對韓方針ノ要
- 七 財政及ビ外交ノ兩顧問備聘
- 八 通信機關ノ委託

外務省

9.3

- 九 保護權ニ關スル英米トノ諒解
- 一〇 保護權設定ニ着手
- 一一 伊藤特使ノ入韓
- 一二 伊藤ノ偲々ト韓帝ノ々々
- 一三 協約案ノ提示
- 一四 韓廷諸大臣ノ態度
- 一五 協約ノ調印
- 一六 和衷商議ノ結果ノミ
- 一七 保護權ノ宣言
- 一八 各國公使館ノ撤去
- 一九 統監ノ職制ニ關スル侯ノ意見
- 第十款 在外使臣館ノ陞格
- 一 日英兩國ノ大使交換
- 二 大使交換ノ利益

外務省

9.3

7-0284

0329

- 三 大使交換ノ前議
- 四 機運漸ク熟ス
- 五 米獨佛三國トノ大使交換
- 六 伊奧兩國相次デ加ハル
- 七 最後ニ露國

第四編

- 第十二章 樞密顧問官ヨリ駐英大使時代
- 一 樞府ニ在ルコト五箇月
- 二 駐英大使トナル
- 三 歐洲國際政局多端ノ秋
- 四 外交家必シモ外交官ニ非ズ
- 五 讀書思索
- 六 侯ト前任ノ林大使
- 七 元老教育ノ必要

外務省

- 八 讀破セル重ナル書籍
- 九 社會問題ヲモ研究

一〇 多讀且精思

- 一一 讀書法ノ要諦
- 一二 無爲消光ニ非ズ
- 一三 伏見宮殿下ノ御渡英
- 一四 別ニ侯ノ執掌セル重要國務アリ
- 一五 第二次桂内閣ノ成立
- 一六 ウキツテト懷敘
- 第十三章 第二次外務大臣時代
- 第一款 外交政策ノ確立
- 一 第二次桂内閣ノ柱石
- 二 官邸ノ禪寺生活
- 三 居ハ氣ヲ移サズ

外務省

7-0284

0330

- 四 侯ノ居常
- 五 第二次桂内閣ノ政綱
- 六 侯ノ外交根本方針
- 七 平和ノ維持ト國力ノ發展
- 八 外交ノ三大綱目
- 九 列國ニ對スル態度
- 一〇 對外經營
 - 一一 條約改正
 - 一二 謂ユル滿韓移民集中論
 - 一三 侯ノ眞意
- 第二款 五大功績
 - 第一項 太平洋ニ關スル日米協商
- 一 日米兩國間ノ不安
- 二 青木駐米大使ノ觀察

外務省

- 三 同大使ノ日米協商案
- 四 政府之ヲ納レズ
- 五 林伯ト青木子
- 六 侯ト林伯
- 七 侯ノ日米親交方針
- 八 協商ノ時機
- 九 米國艦隊ノ太平洋巡航
- 一〇 其ノ動機
 - 一一 侯同艦隊ノ本邦寄港ヲ促ス
 - 一二 我國ニ於ケル大歡迎
 - 一三 ルースヴェルトノ當年ノ感想
 - 一四 協商ノ開談
 - 一五 協商ノ成立
 - 一六 協商ト列國

外務省

7-0284

0331

- 一七 侯ノ加州排日觀
- 第二項 滿洲ニ關スル日清懸案ノ解決
- 一 六種ノ懸案
- 二 法庫門鐵道問題
- 三 大石橋支線問題
- 四 京奉鐵道延長問題
- 五 撫順煙臺炭坑問題
- 六 安奉線外沿道諸鑛山問題
- 七 間島問題
- 八 廟議決定
- 九 伊集院公使ヘ訓令
- 一〇 侯ト唐紹儀ノ意見交換
- 一一 侯唐ニ日支親善ノ要諦ヲ説ク
- 一二 對清交渉ノ開始

外務省

- 一三 其ノ經過
- 一四 清國ノ態度要領ヲ得ズ
- 一五 安奉吉長兩鐵道問題ハ解決急ヲ要ス
- 一六 侯ノ最後通牒
- 一七 局面ノ緩和
- 一八 侯其ノ機會ヲ捉フ
- 一九 妥協成ル
- 二〇 二協約ノ調印
- 二一 協約ト米國
- 第三項 第二回日露協約ノ締結
- 一 第二回日露協約ノ由來
- 二 露國ノ對日態度善化ス
- 三 露國我ガ意向ヲ試探ス
- 四 侯日露溫交ノ要ヲ認ム

外務省

7-0284

0332

- 五 侯ノ意見稟申
- 六 侯ノ獻言政府ヲ動カス
- 七 侯ト日佛協約
- 八 滿洲ニ於ケル日露ノ地位
- 九 日露締約促進ノ動機
- 一〇 滿洲鐵道中立案ノ前驅
- 一一 錦齊鐵道問題
- 一二 一轉シテ錦愛鐵道
- 一三 米清雜輩ノ暗中飛躍
- 一四 米國公然滿洲鐵道中立案ヲ提議ス
- 一五 提議ノ要旨
- 一六 關係列國ノ態度
- 一七 我國ノ態度
- 一八 該提議ヲ拒絕ス

外務省

9.3

- 一九 露國モ拒絕ス
- 二〇 米國ノ追加釋明
- 二一 衆議院ニ於ケル侯ノ説明
- 二二 米國ノ誤算
- 二三 錦愛鐵道假契約ノ再訂
- 二四 同鐵道ニ對スル我が加入條件
- 二五 露國ノ張哈鐵道案
- 二六 之ニ對スル我が態度
- 二七 錦愛鐵道ノ挫折
- 二八 日露ノ諒解
- 二九 廟議侯ノ日露協商案ヲ容ル
- 三〇 協商ノ開談
- 三一 韓國問題
- 三二 協約ノ調印

外務省

9.3

7-0284

0333

- 三三 各國へ通告
- 三四 協約ト清國
- 第四項 韓國併合ノ決行
- 一 併合ハ有史以來ノ大業
- 二 保護政治ヨリ併合
- 三 海牙密使事件
- 四 韓帝ノ讓位
- 五 密使事件ハ讓位ノ機會ヲ早メシノミ
- 六 韓國政治刷新ノ要
- 七 第三回日韓協約
- 八 伊藤統監職ヲ去ル
- 九 侯ノ對韓大方針及ビ施政大綱
- 一〇 伊藤夙ニ併合ノ已ム可ラザルヲ認ム
- 一一 併合斷行ノ順序方法

外務省

- 一二 伊藤ノ遭難ト我が國論
- 一三 併合ノ機運漸ク熟ス
- 一四 寺内新統監ノ入韓
- 一五 併合談判ノ開始
- 一六 併合條約ノ調印
- 一七 侯ノ併合始末演述
- 一八 侯ノ感慨
- 一九 舊關稅ノ十年据置
- 二〇 治外法權ノ撤廢
- 二一 之ニ對スル歐米諸國ノ態度
- 二二 侯ノ勳績
- 第五項 條約改正ノ完成
- 一 條約改正ハ中興ノ鴻業
- 二 條約改正準備委員會

外務省

7-0284

0334

- 三 現行條約廢棄ノ通告
- 四 新條約談判ノ順序方法
- 五 關稅定率法ノ改正
- 六 外國人ノ土地所有權ニ關スル法律ノ制定
- 七 條約談判地ノ取捨
- 八 日米條約談判
- 九 舊條約有効期限ノ解釋
- 一〇 移民條項ノ削除
- 一一 土地所有權問題
- 一二 日米新舊條約ノ異同
- 一三 侯ノ最後ノ演說
- 一四 日英條約談判
- 一五 關稅問題ノ經過
- 一六 議會ニ於ケル質問及ビ答辯

外務省

9. 3

- 一七 責任者ノ苦衷
- 一八 日獨、日佛、其ノ他ノ條約
- 一九 眞個ノ對等條約
- 第三款 牛刀割雞的四事業
- 第一項 日英同盟協約ノ再改訂
- 一 掉尾ノ一功績
- 二 同盟ニ對スル英國國民ノ冷熱
- 三 日英兩國政府ノ同盟繼續希望
- 四 英米總括的仲裁々判條約ト日英同盟
- 五 日英兩國ノ意見交換
- 六 侯ノ同盟更正方針
- 七 我ガ確定案
- 八 交渉ノ開始
- 九 英帝國會議同盟繼續ニ贊ス

外務省

9. 3

7-0284

0335

- 一〇 英國側ノ意見披陳
- 一一 米國除外ニ關スル但書問題
- 一二 其ノ解決
- 一三 調印及ビ公表
- 一四 新協約ノ眼目
- 第二項 日英博覽會ノ經營
- 一 日英博覽會ノ計畫
- 二 候ノ贊意
- 三 閣議決定
- 四 具體的交渉ノ開始
- 五 我が豫算
- 六 契約ノ要點
- 七 明治天皇ノ聖旨
- 八 博覽會經營ノ方針

外務省

- 九 博覽會ノ盛況
- 一〇 成功ハ誇張ニ非ズ
- 第三項 商務官ノ創設
- 一 候ニ至リテ漸ク成功
- 二 商務官設置ノ要
- 三 議會ノ同意
- 四 商務官官制外關係勅令ノ公布
- 五 商務官ノ任用方法
- 六 商務官ノ職務ニ關スル準則
- 七 商務官ノ夭折
- 八 其ノ復活
- 第四項 臘舘獸保護條約ノ締結
- 一 候ノ終末事業
- 二 臘舘獸問題ノ沿革

外務省

7-0284

0336

- 三 米國ノ同獸保護會議ノ招請
- 四 帝國政府ノ參加承諾
- 五 帝國政府ノ方針
- 六 會議開カル
- 七 補償問題
- 八 折衝困難
- 九 日米兩國元首ノ親電交換
- 一〇 協定成立
- 一一 條約ノ調印ヨリ批准交換
- 第十四章 退隱ヨリ薨去
- 一 侯臺閣ヲ退ク
- 二 桂ノ重要政務經過奏聞
- 三 韓國併合及ビ外交ニ關スル奏聞ノ要旨
- 四 侯葉山ニ移ル

外務省

- 五 侯葉山ノ風光ヲ愛ス
- 六 宛然一介ノ老書生
- 七 侯ノ趣味嗜好
- 八 侯ノ體質
- 九 壯時ハ酒豪
- 一〇 晩年飲ヲ節ス
- 一一 劇職僅ニ心身ヲ支フ
- 一二 侯病ニ臥ス
- 一三 侯已レシ後繼者ヲ語ル
- 一四 危篤ニ陷ル
- 一五 永眠
- 一六 内外哀悼
- 一七 兩陛下ノ御弔問
- 一八 靈柩京ニ入ル

外務省

7-0284

0337

- 一九 聖旨靈前ニ降ル
- 二〇 葬禮
- 二一 青山ノ封塋
- 二二 明治大帝ノ追軫
- 二三 明治史ノ結句

外務省

9. 3

7-0284

0338

文書課長(印)

7/2

新編東國史

(美濃半裁野紙) 國納

大正五年十月十八日午後二時
記帳形を存陸下ニ括記
若干文書課長石川理事官立倉現在敷調
故侯爵少村壽太郎傳

甲號	八部	
乙號	六部	
丙號	六部	陸(陸少村侯爵)
丁號	陸部	陸(陸少村侯爵)
附録	四冊	(陸部)

各壹部ト第壹卷第貳卷第參卷第肆卷第伍卷ヲラ五冊々以テ
附録壹部第壹卷第貳卷第肆卷ヲ以テ
總索引如左

外務省

7-0284

0339

(美濃半裁野紙) 圖納

覚

信文彦平氏より山村侯へ提出せられた
山村侯爵傳記編纂事業の国元最終報告
の新書庫階下、保友中、傳記と共に保存
大正十五年十月一日

外務省

文書課長

覚

覚

覚

(美濃半裁野紙)



故佐野少将府邸傳

一甲部 (五冊)

一乙部 (五冊)

一丙部 (五冊)

右に部、信友部、杉中府、手記、少和部
長、送、安、之

昭和三年十月一日

5. 6

外務省

7-0284

0340